

(別記様式第3号)

普及活動検討会実施報告書

(仙台) 農業改良普及センター

実施月日：平成31年2月13日

実施場所：仙台合同庁舎601会議室

1 検討内容

No	検討項目
(1)	平成30年度普及指導活動の実績について ①平成30年度普及活動について ②平成30年度プロジェクト課題について 【完了課題】【継続課題】
(2)	平成31年度普及指導計画(案)について ①平成31年普及指導活動全体について ②平成31年度プロジェクト課題について
(3)	総合検討

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者	2	学識経験者	1
市町村	6	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	

※ () 計画委員数

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果 (コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
(1) 平成30年度普及指導活動の実績について ①平成30年度普及活動について	4.2	<ul style="list-style-type: none"> 計画段階での普及指導活動の目標は、技術普及に重点が置かれていたが、実際に普及活動の中で、労働時間、販売単価、経営収支等を定量化し、経営マニュアルに反映させるなどの工夫や改善が見られた。このように技術普及に加え、経営改善にも寄与しようとする姿勢は高く評価できる。 プロジェクト課題及び重点活動ともに「仙台近郊農業」の課題に即した支援が評価される。なお、次年度以降のフォローアップが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度に完了する課題の指導対象につきましては、平成31年度に重点活動対象として引き続きフォローアップを行います。
(1) 平成30年度普及指導活動の実績について ②平成30年度プロジェクト課題について	4.6	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営の規模、法人・個人経営、株式会社・農事組合法人等の組織や経営形態を問わず、農業者同志の交流を促すことで、地域のリーダーとなるべき人材というのは自ずと見えてくると思う。組織や経営規模の違いから、意思決定の仕方やスピード感についてもお互いに学ぶことが多いように思う。農業者同士の交流や研修会をプロジェクト課題と融合させるとさらに魅力的な地域農業の姿が描けるようになるのではないかと。 販売先でのニーズ把握や経営収支を取り入れたマニュアル作成等、経営者視点からプロジェクトが実施された点は高く評価できる 3カ年の成果として良好な報告状況に感謝している。経過観察が必要な組織が見られるので今後も指導が必要。 農事組合法人においても、役員の高齢化により後継者の育成が依然緊急の課題となっている。 就業規則の導入や株式会社への組織変更について検討している組織もあるが、組合員の同意を得るのに時間を要し、なかなか進まないのが現状。将来を見据えた支援が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度はJA単位で地域の担い手を対象に研修会を開催しています。平成31年度は頂いた意見を参考に、管内全域を対象にした研修会や交流会を企画したいと思います。 農事組合法人における経営継承や組織内の合意形成は、共通の重要課題ですので、その課題に注視した支援を今後も引き続き行っていきます

<p>(2) 平成31年度普及指導計画(案)について ①平成31年度普及指導活動全体について</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業普及のやり方を、トップランナー育成型とボトムアップ型の大きく2つに分けた場合、GAPの活用、ICT農業、農産加工はトップランナー育成型、中山間地農業はボトムアップ型に分けられる。 ・トップランナー育成型では、支援を受ける経営体の方針や決定を最大限尊重すると同時に、その責任を明確化にして、伴走するかのような支援が求められているのに対して、ボトムアップ型では、走り出す前の準備を手厚く支援するイメージ。 ・GAPの活用、ICT農業、農産加工に関するプロジェクト課題の経営体の中には、すでに十分な実績を有しているところもあるので、そうした経営体では、逆説的ではあるが、「二度の支援を受けなくてもいいように支援する」必要がある。 ・「農業の発展＝地域の充実」が唱えられているが実現は可能か。絞り込みが必要。 ・個々の農家にも目を向ける指導もほしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいたご意見を参考に対象農業者の状況に応じた支援に努めます。また、支援した事がきちんと定着するよう意識した支援を心がけます。
<p>(2) 平成31年度普及指導計画(案)について ②平成31年度プロジェクト課題について</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中間地農業を支える営農体制の整備に関する課題が設定されたことは高く評価できる。 ・N01, N02, N03については、栽培並びに経営体育成が柱とされ、普及活動に適していると思うが、N04, N05は企業育成である。農改センターの分野なのか？ ・先進的技術を習得した方々が、将来的に独立して県内の農業振興に繋がればすばらしいことです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人経営の農業者も法人経営体も地域農業の重要な担い手です。それぞれが抱える課題を解決しモデルとして育成することは、普及事業の重要な役割です。ご理解を頂き、今後の普及活動にご協力いただくようお願いいたします。
<p>その他御意見、御要望やお気づきの点がありましたら記載して下さい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会のメンバーに農業士の方が増えたことは良い。 ・農業者同士の交流、成果発表、農業者による政策提言等、農業者の声を聞く機会をふやしてほしい。 ・女性中心（女性の多い職場）の法人化、女性ならではのアイデア等も支援対象としてはどうか。 ・農業問題の根幹でもある後継者問題や法人化や6次化をする上で重要な販路を踏まえた検討がなされていないように感じた。 ・農業経営者は1次と3次の取組はしやすいが、2次への取組は、技術や設備が必要であるため取組が難しく進んでいない現状である。農商工連携も視野に入れた活動も必要ではないか。 ・生産量の増加だけでなく、収益性にも着目して進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管内の農業問題について常々検討し、活動を展開しておりますが、今回、限られた時間の中で説明が足りなかったことを踏まえ、十分な検討時間の確保に努めます。 ・いただいたご意見を参考に引き続き活動を展開して参ります。